

地域情報（県別）

【岐阜】 COVID-19で初診患者数が倍増。メンタルの不調が増加傾向-安藤大樹・あんどろ内科クリニック院長に聞く◆Vol.1

2020年8月28日 (金)配信 m3.com地域版

岐阜県岐阜市のあんどろ内科クリニックでは、2020年4月の緊急事態宣言後に一時的に患者数が減ったものの、その後は初診の患者数が倍増したという。院長の安藤大樹氏に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響について聞いた。また、クリニックのコンセプトと、「総合診療のマインドを地域に広めたい」という安藤氏の思いについても触れる。（2020年8月3日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）



あんどろ内科クリニックの安藤大樹氏（クリニック提供）

――COVID-19によってどのような影響がありましたか。

2020年4月の緊急事態宣言後、年配の方々を中心に診察を控える動きがあり、外来患者数が一時的に減少しました。しかし、6月以降はCOVID-19の感染拡大前に比べて患者数が1.4倍ほどに増加。特に、初診の患者さんが数多く訪れていて、COVID-19以前と比べて倍増した印象です。

COVID-19によってプライベートの時間がとれるようになり、この機会に受診したという内科の患者さんもいますが、多いのはいわゆる「コロナうつ」の患者さんです。COVID-19に対する不安の増大や、外出自粛による閉塞感の高まりなどを背景に、心の不調を訴える患者さんが増えています。COVID-19をきっかけに、それまで抱えていたメンタル面での不調が症状として表出したケースも少なくありません。

当院では、心と身体を切り離して考えるほうが不自然だと考えていて、内科のほか心療内科外来を行っています。5月以降、初診の患者さんの多くにメンタル面の不調が見られるため、「全人的な医療」「病気ではなく人を診る」をモットーとしてきた当院としては、力を発揮すべきときでもあると考えています。「これは心の問題だから精神科に行ってください」と患者さんを突き放すことはしたくありません。もちろん、専門の精神科医のような診療はできませんが、努力や手間を惜しまずに、できるだけ患者さんに寄り添い続けていきたいです。

どのような患者さんの来院も大歓迎なのですが、本来の内科としての役割に支障が生じるほど心療内科の患者さんが増えていることは、ジレンマでもあります。特に初診の方にはできるだけ時間をかけたいのですが、その待ち時間が長くなったり、待合室が混雑したりといった状況を生んでしまうため、日々そのバランスに悩んでいます。

――COVID-19の感染を防ぐために、クリニックではどのような対策をしていますか？

総合診療に注力する当院には、当初から感染隔離室が備わっていますので、感染が疑われる場合はそちらで診察しています。また、広い待合スペースや2階のカンファレンス室などを活用して、3密の回避に努めています。感染の疑いがある患者さんは、クリニックに入らず車で待っていただいたり、必要に応じて屋外（車中）で診察をしたりして、比較的スムーズに対応できている状況です。

夏場の熱中症患者の増加や、冬場に予想されるインフルエンザウイルスとSARS-CoV-2のダブルでの感染拡大を考えると、かなり高いレベルの発熱診療が求められます。幸い、総合診療外来では不明熱をはじめ、数多くの発熱患者さんの診療に当たってきましたので、その経験をできる限り患者さんにフィードバックしたいと考えています。

COVID-19の感染が拡大するなか、昨今の極端な報道に触れて不安を募らせている方、精神的に病んでしまっている方が大勢いらっしゃいます。どんな状況下でも、安心して受診いただける体制を整えていきたいです。また、できる限り、患者さんにCOVID-19に関する正しい知識を伝えていきたいと思っています。

――患者向けに冊子を作成したり、新聞などメディアに寄稿したり、積極的な情報発信もされています。

今は、日本中が医療情報の嵐に翻弄されている時代だと思います。有益な情報が存在する一方、ただ不安になるだけの情報も多く、「不安が病気をつくっている」と感じることも。できる限り多くの方に正確な情報を伝えて、病気を「正しく」怖がってほしいというのが私の思いです。例えば、COVID-19とは何か、どんな病気をか、メディアの情報から正確に知ることは難しいでしょう。微力ではありますが、私が発信する情報が誰かにとってほっとできる、安心できるきっかけになれば、と願っています。

以前から「誰でも気軽に医療のことを考えたり、相談したりできる、町の健康サロンのような場所をつくりたい」という思いがあり、地元の方を対象に健康セミナーなどを開催してきました。今はCOVID-19の影響もありセミナーなどは行えていませんが、今後もホームページや冊子などを活用して、医療啓発ができる場所を持ちたいです。

――あんどろ内科クリニックのコンセプトについてお聞かせください。

基本的には「何でも屋」でありたいと思っています。「腰が痛い」「目がかすむ」「耳鳴りがひどい」など、どんな分野のことも気軽に相談できる場所を目指しています。極端な話、医療以外の話も歓迎です。お孫さんの自慢話や、旦那さんの愚痴なんかを聞くこともあります（笑）。その人の人生について耳を傾け、一緒に未来のことを思い、一生寄り添っていけたら最高ですね。

クリニックとしても、本屋に併設するカフェのような、リラックスできる雰囲気づくりを大切にしています。患者さんにとって緊張せず、安心できる場所であることが理想です。診察では患者さんからの話をじっくり聞くことを重視し、場合によっては1回の診察に20分かけることもあります。診療に関係のない話であっても、時間が許す限り、会話を止めないようにしています。患者さんに自由に話してもらい、どんな情報も取りこぼさずに判断したいからです。



あんどろ内科クリニック（クリニック提供）

◆安藤 大樹（あんどろ・だいき）氏

2004年藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）卒業。同年藤田保健衛生大学病院（現：藤田医科大学病院）初期研修、2006年一般内科入局。2007年より医局長、2011年総合診療内科／救急総合内科医局長を務める。2015年、岐阜市民病院総合診療・リウマチ膠原病センターに医員として着任。同年、同大学救急総合内科客員講師。2017年より、あんどろ内科クリニック院長として治療に当たる。2018年岐阜市民病院研修管理委員会外部委員、2020年岐阜大学医学部総合病態内科学客員講師。2010年～2014年、藤田保健衛生大学病院最優秀指導医賞受賞。

【取材・文＝加藤 由起子】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

